

## 岩 手 県 金 融 経 済 概 況

### 1. 概 況

県内の景気は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている。

最終需要の動向をみると、公共投資が前年を上回っているが、住宅投資が低調に推移しているほか、設備投資も製造業を中心に大幅に減少している。また、個人消費は一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

こうした中、生産は緩やかに持ち直しているが、雇用情勢は厳しい状況が続いている。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

個人消費は、一部に政策効果がみられるものの、全体では弱い状況が続いている。

#### (大型小売店売上高)

百貨店の売上高をみると、衣料品や雑貨などは低調に推移しているが、物産展などが奏功し食料品の売り上げが持ち直していることから、前年比減少幅はやや縮小している。

スーパーでは、衣料品が低価格のプライベートブランドへのシフトが進んでいるうえ、食料品も青果物を中心にバラ売りが増えており一品単価・客単価を押し下げていることから、前年を下回って推移している。

#### (家電量販店売上高)

家電販売は、薄型テレビが好調に推移しているうえ、パソコンの前年比マイナス幅も縮小していることから、全体では前年を上回る動きとなっている。

#### (新車登録台数)

10 月の新車登録台数は、軽自動車の前年を割り込んだものの、普通車を中心に乗用車が前年を大きく上回っていることから、全体では前年を 1 割弱上回った。

(観光)

主要観光地の入込みは、昨年発生した地震の反動に加え高速道路 ETC 割引の効果から、前年を大きく上回って推移している。

(2) 公共投資

10月の公共工事請負金額は、国からの大型工事の発注があったことなどから、前年を3割方上回った。

(3) 住宅投資

9月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を大きく割り込んでおり、全体では8ヶ月連続の前年割れ。

(4) 設備投資

2009年度の設備投資計画(9月短観調査結果\*)は、設備過剰感や需要の先行き不透明感が依然強いことから、製造業を中心に大幅に減少している。

\*09年度計画・前年度比：製造業 40.8%、非製造業 5.6%、全産業 37.0%

### 3. 生産動向

生産は、引き続き緩やかに持ち直している。

(電子部品・デバイス)

電子部品・デバイスは、東アジア諸国からの受注増加を主因に、持ち直しの動きが続いている。

(輸送機械)

完成車、自動車部品とも、政策対応を受けた国内外の需要の回復から、減産を緩和している。

(一般機械)

半導体製造装置は、東アジアからの受注回復を背景に、減産を緩和している。建設機械部品も、海外需要の持ち直しなどから、減産を緩和している。一方、工作機械は、依然受注が低迷しており、減産を継続している。

(その他)

窯業・土石は、民間需要の減少から減産を強化しているが、木材・木製品は、在庫調整の進捗などから減産を緩和している。この間、食料品は、ほぼ横這いで推移している。

#### 4. 雇用・所得の動向

9月の有効求人倍率（季節調整値）は、0.33倍（前月：0.32倍）と、小幅ながら2か月連続で改善。新規求人倍率（同上）は、0.71倍（前月：0.62倍）と2か月ぶりに改善した。

この間、雇用者所得は、常用雇用者数が前年を下回っていることなどから、前年割れが続いている。

#### 5. 企業倒産

10月の企業倒産（負債総額10百万円以上）は、件数が5件（前月4件、前年同月14件）、負債総額が5億27百万円（前月4億1百万円、前年同月56億68百万円）と、件数、負債総額とも、今年2番目の低水準。

#### 6. 金融面の動向

預金動向は、緊急保証制度融資の歩留まりや公共工事の増加を主因に法人預金が増加したことなどから、前年比伸び率は拡大した。

貸出動向は、住宅ローンが頭打ちとなっているものの、地方公共団体向けが増加していることなどから、前年を上回って推移している。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <a href="http://www3.boj.or.jp/morioka/">http://www3.boj.or.jp/morioka/</a>
---